

HEART NEWS

2014年11月1日発行

Vol. 10

大阪市立総合医療センター循環器センター



ハートニュース Vol. 10 巻頭言

冬も近づき、朝夕もめっきり寒くなってまいりました。当院も10月1日から名称を「地方独立行政法人大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター」に変更し、新たなスタートを切ることになりました。地方独立行政法人とは、公的な法人でありながら自治体から独立した法人になることにより、様々な面でより自立的、弾力的な運営が可能となり、民間病院に近い効率的な運営が可能で高度専門医療や多様な患者ニーズにより迅速に応えられるようになります。循環器センターもこの利点を十分に生かし、循環器内科、心臓血管外科が一丸となって皆様のご要望に迅速・確実に応えられるよう取り組んで参りますので、今後ともよろしく願いいたします。

今回は超高齢化時代に突入し、益々大切な問題となってきている超高齢者医療について当院での治療の現状を報告します。

大阪市立総合医療センター 循環器センター部長

循環器内科部長

成子 隆彦

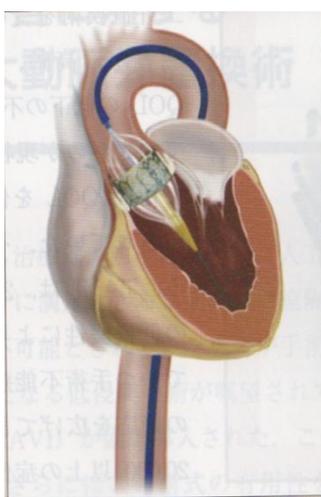
超高齢者の心不全治療

循環器内科 古川敦子

近年、加速する高齢化に伴い注目されるようになってきている心不全の原因として、まず HFpEF (Heart Failure with preserved Ejection Fraction; 左室収縮能が保持された心不全) という概念が浸透しつつあります。いわゆる高血圧性肥大心(拡張不全心)として認識されていた疾患に加え、二次性心筋症や心房細動心など多岐の疾患を含みます。HFpEF には、古典的に知られてきた HFrEF (Heart Failure with reduced Ejection Fraction; 左室収縮能低下を伴う心不全) と違い、ガイドラインやエビデンスで確立された治療法はまだありませんが、基本的にはレニン・アンジオテンシン・アルドステロン系や交感神経活性を抑制する ACE 阻害薬・ARB やβ遮断薬での降圧心不全治療が必要と考えられており、当院でも心不全の再発防止、入院頻度の減少のために積極的な薬物治療を行っています。

もうひとつは変性性石灰化による大動脈弁狭窄症です。自覚症状や心不全を伴う重度大動脈弁狭窄症に対する治療は外科的弁置換術が基本となりますが、どうしても外科的治療の侵襲に耐え得ない症例や高齢ゆえに侵襲的治療に躊躇される患者さんに対しても、経カテーテル大動脈弁大動脈弁植込術 (TAVI/TAVR; Transcatheter Aortic Valve Implantation/Replacement) や、経皮的大動脈弁形成術 (BAV; Balloon Aortic Valvuloplasty/PTAV; Percutaneous Transcatheter Aortic Valvuloplasty) といった治療法が新たに登場し、その適応を拡大させつつあります。当院でも早期の導入ができるよう現在準備を進めているところです。

TAVI/ TAVR



経大腿動脈アプローチ



バルーン拡張型もしくは自己拡張型ステントに生体弁を装着して狭小大動脈弁の内側に挿入します。

循環器内科外来担当医のご案内

	月	火	水	木	金
午前	阿部	小松	占野	柚木	成子
午後	阿部	小松	中川	柚木	成子
	中川(ペースメーカ)		古川(2,4,5週)		

地域初診外来

	月	火	水	木	金
午前	成子			成子	阿部
午後			占野(不整脈)		

診察予約(地域医療連絡室) TEL:06-6929-3643 FAX:06-6929-0886

平日 8:45~20:00
土曜日 8:45~13:00

超高齢者大動脈疾患に対するstent graft治療

心臓血管外科 加藤泰之

当科では2010年以後、大動脈疾患に対してstent graft治療を積極的に導入しております。Stent graft治療の一番の特徴はその低侵襲性です。従来、胸部大動脈疾患に対する手術では人工心肺装置や開胸操作を必要とし、腹部大動脈疾患では開腹下に人工血管置換術を行っており、術後経口摂取開始まで数日を要します。

しかし、stent graft治療では人工心肺装置は必要なく小さな傷で手術を行うことが可能であるため、多くの場合手術翌日より経口摂取が可能で、術後の回復も早く早期に退院することができます。そのような利点は特に高齢の方では大きく、高齢者大動脈疾患の患者さんにはstent graft治療を第一に考えています。

当院では2014年にハイブリッド手術室が完成して、より高度な治療が可能となり、今後も積極的にstent graft治療を行っていく予定です。

図1 高齢者(80歳以上)大動脈疾患におけるstent graft治療の割合 (2010~2013)

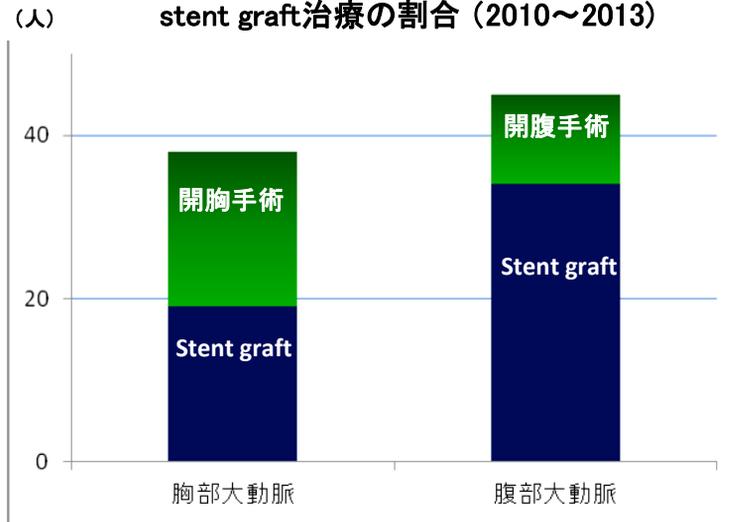


図2 胸部大動脈 stent graft 治療前 治療後



心臓血管外科外来担当医のご案内

	月	火	水	木	金
午前	交代制	佐々木	高橋	加藤	尾藤
午後	交代制	佐々木	高橋(1,3週)	加藤	柴田(弁膜症)・尾藤

柴田前部長は、異動後も金曜午後の弁膜症外来をはじめ、引き続き当院の心臓弁膜症診療に携わっています。

診察予約(地域医療連絡室)

TEL:06-6929-3643 FAX:06-6929-0886

平日 8:45~20:00

土曜日 8:45~13:00

今号の循環器センター日記

大阪市立総合医療センター循環器センターでは、臨床・教育および研究を加えた3点がバランス良く揃うことを目標にしております。7月から10月に多くの研究会や学会が開催され多くの発表を行いました。

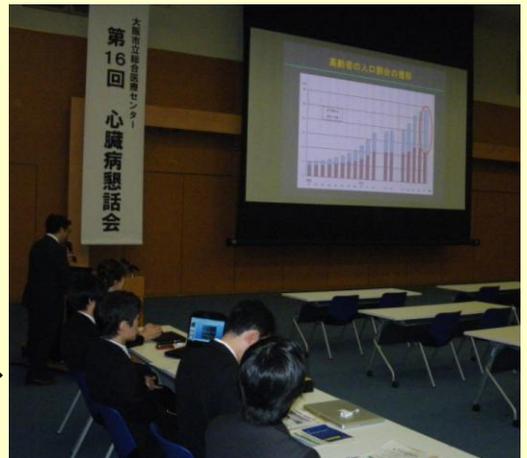
第34回心筋梗塞研究会が東京で開催されました。今回は、循環器内科松下医師が、急性冠症候群の原因となる冠動脈内の閉塞性血栓と喫煙との関係について報告し、昨年吉山医師に引き続き若手優秀新人賞 (Young Investigator Award, YIA) を受賞しました。



9月に仙台で開催されました日本心臓病学会では、古川医師がこれまで阿部医師が報告してきましたポケットエコーによる大動脈弁狭窄症の評価に基づいた大動脈弁狭窄症の予後についての発表を行いました。また吉山医師は薬剤溶出性ステントの長期予後における新しいバイオマーカーであるパラオキシナーゼ-1(PON-1)の意義について、また松下医師による大動脈弁狭窄症における酸化ストレスのバイオマーカーであるLectin-like oxidized LDL receptor-1 (LOX-1)の意義について報告しました。



10月18日に当院さくらホールにおいて、第16回心臓病懇話会を開催いたしました。今回は「超高齢者の循環器医療」をメインテーマとしました。超高齢化時代に突入し、益々大切な問題となってきたこの問題について 座長をしゃくど循環器・内科 院長 赤土正洋先生と大阪府済生会野江病院 循環器内科部長 胡内一郎先生にお願いし、循環器内科から古川、吉山医師、心臓血管外科から、尾藤、高橋、加藤医師が、当院での超高齢者の治療の現状や問題点についてお伝えし、地域医療機関の先生方と活発な意見交換を行いました。今回お忙しい中、お越しにいただいた先生方に感謝いたします。また、今回お越しになれなかった先生方にも来年の本会へのご参加を心よりお待ちしております。



当院循環器内科、心臓血管外科は近隣の先生方からの循環器救急疾患をさらに迅速に受けられることができるようにするため、循環器センター直通電話（ハートライン）を設置しております。

**ハートライン（循環器センター直通電話）
06-7662-7979**

その他の場合は御面倒ですが、06-6929-1221（代表）から呼び出して下さい。